

## 平成 15 年度 第 6 回常任委員会 議事録 (案)

日時：平成 16 年 3 月 9 日 (火) 14:00 から 17:00

場所：土木学会講堂

出席者：丸山委員長、石橋、魚本、梅原、岡沢、金津、河野、小島、坂井、堺、佐藤(勉)、佐藤(良)、島、十河、竹田、武若、辻、堤、手塚、富田、二羽、福手、松岡、宮川、睦好、六郷(代理：内田)、前川幹事長、宇治・中村・三島・横田の各幹事

### 配付資料

- 6-0 平成 15 年度 コンクリート委員会 第 6 回常任委員会 議事次第
- 6-1 平成 15 年度 第 5 回常任委員会 議事録 (案)
- 6-2 土木学会コンクリート委員会国際戦略に関する提案
- 6-3 電気炉酸化スラグ骨材コンクリート指針の英訳版の出版に関する件
- 6-4-1 アルカリ骨材反応対策小委員会 委員構成
- 6-4-2 超高強度繊維補強コンクリート研究小委員会 委員構成
- 6-4-3 吹付けコンクリート研究小委員会 委員構成
- 6-4-4 コンクリート構造物のヘルスマonitoring研究小委員会 委員構成
- 6-4-5 豊かな沿岸を造る生態系コンクリート研究調査小委員会 委員構成
- 6-5-1 超高強度繊維補強コンクリート設計・施工指針 (案)
- 6-5-2 超高強度繊維補強コンクリート設計・施工指針 (案) に対する意見回答書
- 6-6 電力施設解体コンクリートの利用技術確立に関する研究 実施報告
- 6-7 アルカリ骨材反応対策小委員会 本年度活動報告と次年度活動計画
- 6-8 コンクリートライブラリー国際誌の廃刊のお知らせ
- 6-9 阪神淡路大震災 10 周年・土木学会特別行事企画書 (案)
- 6-10 平成 15 年度コンクリート委員会 一般会計 会計状況 (3 月 5 日現在)
- 6-11 平成 16 年度「重点研究課題 (研究助成金)」申請書
- 6-12 ホームページ「jsce.jp」資料
- 6-13 会議に伴う食事等費用の支弁について (ガイドライン)
- 6-14 「弾性波法によるコンクリートの非破壊検査」に関するシンポジウム・論文募集
- 6-15 「コンクリート構造物の耐火技術研究」に関するシンポジウム・論文募集
- 6-16 第 4 回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム 参加募集
- 6-17 連合小委員会の活動期間延長に関するお願い

### 議事：

#### 1. 委員長挨拶

丸山委員長より、委員会開始にあたっての挨拶があった。

#### 2. 前回議事録の確認 (平成 15 年度第 5 回常任委員会)

資料 6-1 の平成 15 年度第 5 回常任委員会議事録 (案) が承認された。

### 3. 審議事項

#### (1) 委員会戦略

堺国際関連小委員会委員長より、資料 6-2 に基づき、土木学会コンクリート委員会の国際戦略に関して 8 項目の提案がなされた。これに対して、睦好委員より土木学会の国際委員会や J C I での活動と重複しないよう配慮すべきとの意見が出された。また、魚本委員より、カナダ土木学会との交流などの個別対応についての質問がなされた。議論の結果、1) 提案された戦略の基本方針を承認する 2) 8 項目の優先順位は幹事会にて検討する 3) 国際関連小委員会は個別案件の対応窓口と考えるの 3 点が確認された。なお、丸山委員長からホームページ、ニュースレターなどはすぐに取り掛かりたいとコメントされた。

#### (2) 台湾土木学会共同セミナーの主催について

堺委員より、土木学会国際委員会よりコンクリート委員会へ台湾土木学会との共同セミナー主催を依頼されていることが報告された。現在、セミナーの規模、話題などは問い合わせ中。セミナーのプログラム検討はコンクリート委員会と相談しながら進める、昨年度の韓国でのセミナーよりも活発になるよう工夫すること確認された。

#### (3) 委員会報告等の知財管理と著作権について

丸山委員長より、コンクリート委員会の各小委員会での活動成果と小委員会に所属する委員の個人的な研究成果に関する切り分け、知的所有権の取り扱いについて、十分注意するように要請がなされた。これに対して、委員会活動で新しいアイデアが出た場合の知的所有権の取り扱いについて土木学会の標準的なシステムはあるのか、などが議論された。土木学会でのシステムの構築についてその必要性を理事会等の上部組織に提言する、コンクリート委員会では小委員会委員長の注意をさらに喚起することが確認された。

#### (4) 平成 16 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集

丸山委員長より、平成 16 年度全国大会研究討論会の企画募集がコンクリート委員会宛で来ており、幹事会で議論した結果、「アルカリ骨材反応」を提案したいことの説明がなされた。具体的な対応は、宮川委員に引き受けて頂くことで了承された。なお、申し込みは中村幹事が行うこととなった。

#### (5) 鉄筋継手指針改訂について

丸山委員長から、継ぎ手指針について、前回の改訂（昭和 57 年）から時間もたっており、新しい技術がいろいろ出てきているのでそろそろ改訂したいことの提案がなされた。本指針の改定は出版委員会からも要請されている、前回の指針は企業から委託された経緯があるので今回も委託先を探したい、などの追加説明がなされた。これに対して、まずは前回の委託先にサポートをお願いするのが筋である、圧接協会との連携も考えた方がよい、などが議論された。その結果、コンクリート委員会では改訂する方向で進める、具体案は幹事会で検討することが了承された。なお、辻委員よりアモルファス接合についても考慮して欲しいとの要請がなされた。

#### (6) 電気炉酸化スラグ指針関連の英訳版の出版について

宇治幹事より、資料 6-3 に基づき、電気炉酸化スラグ骨材コンクリート指針の英訳版を技術シリーズにて出版することならびにスラグ骨材の密度吸水率試験方法の英訳を C L I に掲載することが提案された。

辻委員より、英文ライブラリーを活用してはどうかとの意見が出されたが、丸山委員長より前回委員会までの議論を踏まえて、新しいシリーズを作ることを考えたいとの回答がなされた。梅原委員より、今後も種々の指針を英訳することになるので、ルールを整備する必要があるとの意見が出された。議論の結果、技術シリーズとは異なる新たなシリーズを作って出版する、英訳版出版の新たなシステム作りについては幹事会で検討することが了承された。なお、魚本委員より、出版物の在庫が残ると土木学会の資産に計上されるので、売り切ることを考えて欲しいことが要望された。

#### (7) 表面保護工法研究小委員会の受託変更契約

宮川委員より、同小委員会の期間を、当初予定の平成 16.6.30 から平成 16.9.30 に延長したい旨の要望がなされた。さらに、これに伴って、研究委託費が 150 万円増額されること、ならびに講習会は平成 16 年秋頃になることが説明された。これに対して特に意見は無く、期間延長等の要望は了承された。

#### (8) 鋼コンクリート連合小委員会の活動期間延長について

丸山委員長より、資料 6-17 に基づき、鋼・コンクリート合成構造連合小委員会に代わって常置委員会「複合構造委員会」を設置する問題に関して、調査研究委員会から引き続き検討するとの回答しか得られなかったため、同小委員会の活動期間を 1 年延長したいとの提案がなされた。これに対して特に意見は無く、1 年に限って延長することです承された。

#### (9) 小委員会の委員構成，変更，交代

丸山委員長より、資料 6-4-1～6-4-5 に基づき、各小委員会の委員構成変更についての報告がなされたが、特に問題なく了承された。

#### (10) 超高強度繊維補強コンクリート指針案

二羽超高強度繊維補強コンクリート研究小委員会委員長ならびに内田委員より、資料 6-5-1 および説明用スライドに基づき、設計・施工指針（案）の概要が説明された。これに対して以下のような議論がなされた。なお、指針（案）に対する意見書は 4 月 9 日までに二羽同小委員会委員長宛に送付することです承された。

- ・竹田委員、堺委員などから、指針の構成が特定の製品を対象としたものになっていないかとの質問が出された。これに対して、特許に関連する部分は実施許諾が前提となっている、指針の構成についても要求性能を規定する形になっているので問題が生じないように配慮したつもりであるとの回答がなされた。

- ・佐藤（良）委員からのプレキャスト製品の継ぎ目の部分はどのような設計になっているのかという質問に対して、プレストレスによって使用時に引張応力が生じないようにしているとの回答がなされた。

- ・睦好委員からの引張強度試験は割裂試験で問題ないかとの質問に対して、直接引張試験が望ましいが、試験方法が難しいので曲げ試験を基本としているとの回答がなされた。

- ・堺委員、十河委員などから指針のタイトルについて、「超高強度」の位置が不適切、一般的な名称すぎで混乱を招かないかなどの指摘がなされ、今後検討するとの回答がなされた。

- ・辻委員から、鉄筋を併用した場合は問題が生じないのかとの指摘がなされ、鉄筋を併用した実績は無く、検討課題としたいとの回答がなされた。また、通常の試験方法では求められないような物性値も多いのではないのかとの指摘に対して、参考資料で対処する予定であるとの回答がなされた。

・魚本委員より、標準的な条件においては耐久性の照査を省略して良いとの記述が多いが、耐用年数を明記すべきであるとの指摘がなされ、これについては修正することとなった。

・坂井委員より、養生温度は90 以上を標準としているが、通常のコンクリートでは70 以下が標準であるので、その理由を明記して欲しいとの指摘がなされ、次回までに調査するとの回答がなされた。

・河野委員より設計例はつける予定かとの質問がなされ、完成次第できるだけ早く各委員に郵送することとなった。

#### (11) その他

##### 1) JISの用語について

河野委員より、JISの用語についての議事録は、Emailにて送付することが提案され、了承された。

##### 2) ISOの英訳助成金について

宇治幹事より、ISOの英訳助成金について、3月5日が締め切りであるが、若干待ってもらえそうなので、これまで対象となった2つの指針に加えて、適当な指針があるかどうかの確認がなされた。議論の結果、エポキシ樹脂塗装鉄筋指針を新たに申請することで了承された(英訳は武若委員が担当)。

#### 4. 報告事項(16:10~17:00)

##### (1) 電力解体コンクリート(委託)中間報告

辻委員より、資料6-6に基づき、同委員会の実施状況について説明があった。平成16年12月に設計・施工指針を完成させる予定で進めており、次回のコンクリート委員会、常任委員会にて指針原案の審議をお願いしたいとのこと。これに対して、対象とする再生骨材の品質規格を明確にして欲しいなどのコメントが出された。

##### (2) アルカリ骨材反応対策小委員会本年度活動報告と次年度活動計画

宮川同小委員会委員長より、資料6-7に基づき本年度の活動報告がなされた。活動は3WG体制のもとで、順調に進んでいる。来年度は小委員会の最終年度であり、引き続き調査・検討を進めながら、報告書の取りまとめを行っていく。

##### (3) CLI 廃刊に関する報告

宇治幹事より、資料6-8に基づきCLI廃刊に関する報告が行われた。5月号の土木学会誌にて告示される予定。

##### (4) 来年度コンクリート委員会 常置委員会予算配分(調査研究部門)

丸山委員長から来年度の常置委員会予算配分についての説明がなされた。次回の理事会で決定の予定であるが、来年度のコンクリート委員会の予算は199万円から180万円に減額される(7.9%カット)。これは、活動内容に対する評価が一番高いものの、来年度から新設される重点課題研究の予算確保のためとのこと。

##### (5) 土木学会阪神淡路大震災10周年特別行事準備会

睦好委員より、資料6-9に基づき、阪神淡路大震災10周年特別行事の準備状況について報告が行われ

た。土木技術者向けの調査研究活動と一般市民向けのシンポジウムを建築学会と共催する方針で進めている。シンポジウムの具体案が決まり次第、コンクリート委員会に報告したい。

(6) 示方書等出版物売り上げ状況と対応報告（宇治幹事）

宇治幹事より、示方書等出版物売り上げ状況とその対応について報告がなされた。売り上げ目標達成率は2月末で約72%であり、期末での目標達成は難しい状況。全国建設業協会の会員にダイレクトメールを出すなどの対応を実施した。これに対して魚本委員より、コンクリート委員会主催の講習会などで、示方書も一緒に販売するなどの工夫をする必要があるとのコメントが出された。

(7) 予算執行中間報告

丸山委員長から、資料6-10に基づき、3月5日現在の会計状況について特に問題ないことが報告された。

(8) 特定研究課題申請（コンクリート委員会）

丸山委員長より、平成16年度重点研究課題に、「コンクリート構造物の環境設計」、「コンクリート構造物のヘルスマonitoringに関する調査研究」、「アジアにおけるコンクリート技術協力戦略に関する研究」および「複合構造物の性能照査指針（案）の国際化及び実用化研究」の4課題を、それぞれ100万円の予算にて申請したことが報告された。

(9) JSCE コミュニケーション部門からの依頼対応

中村幹事より、資料6-12に基づき、JSCE.JPのホームページで行われている質問コーナーへの回答作成などの協力依頼がなされた。

(10) 会議の飲食費についてのガイドライン

松沼担当職員より、資料6-13に基づき、会議に伴う所持等の費用の支弁についてのガイドラインが説明された。

(11) 326 委員会シンポジウム

中村幹事より、資料6-14に基づき、「弾性波法によるコンクリートの非破壊検査」に関するシンポジウムが2004年8月3日に行われることが報告された。

(12) 327 委員会シンポジウム

中村幹事より、資料6-15に基づき、「コンクリート構造物の耐火技術研究」に関するシンポジウムが2004年10月28日に行われることが報告された。

(13) その他

宮川委員より、資料6-16に基づき、コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウムが2004年10月29日に行われることが報告された。

## 5. その他

来年度のコンクリート委員会・常任委員会は以下のスケジュールで行われることが確認された。

第1回常任委員会	2004.5.10 14:00～17:00 (東京)
第2回常任委員会	2004.7.9 時間未定 (高知)
3種委員長会議	2004.9.7 14:00～15:00
第3回常任委員会兼コンクリート委員会	2004.9.7 16:00～19:00 (名古屋)
第4回常任委員会	2004.10.7 14:00～17:00 (東京)
第5回常任委員会	2004.12.17 14:00～17:00 (東京)
第6回常任委員会	2005.3.8 14:00～17:00 (東京)

以上